

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	0670100940		
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形県山形市東山形1丁目4-12		
自己評価作成日	平成24年 9月 10日	開設年月日	平成 13年 1月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年の開設以来レクリエーションには力を入れ取り組んでいます。平成23年11月28日に東山形に移転し、目の前にはひぐらし公園があり、その公園をお借りして春にはお花見会、夏には夏祭り『千歳祭』を開催し、利用者・御家族を始め地域の皆様にも楽しんで頂きました。初夏には日帰り旅行を実施しており、大型バスを貸し切って小旅行に出掛け美味しい物を食べたり、郷土の土産物を買ったり思い出を作っています。さくらユニットには、踊りを得意とする利用者が数名おり催し物がある時は披露して下さり盛り上げてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町2丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 11月 2日	評価結果決定日	平成 24年 11月 26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの後、施設理念を唱えて意識づけを図り取り組んでいる。又、ユニット独自の理念も玄関に掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい地域との交流のため、苑内外の行事に参加を呼びかけたりして参加頂いている。散歩等の際は積極的に挨拶し、利用者を交えて交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で参加者を取り巻く現状や取り組み方等を伺いながら、又、施設の経験談や取り組み方等を話して情報交換に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しい地域になり、活発な質問や意見を貰いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員を受け入れており、来訪の時間を特定せずに利用者のいろいろな場面と一緒に過ごして貰っている。介護相談員を通して、又、必要時は電話や窓口で課題解決のため相談したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	管理者を中心に全職員が改めて勉強する機会を設けて再確認を行った。歩行が危険な利用者には身体に合った歩行器を使用し行動を制限しない配慮を継続している。又、日中いかなる時も玄関の施錠はしていない。離苑傾向の利用者は見守りや連携プレーで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員での学ぶ機会は得られてないが、常に代表者や管理者より注意喚起しており、其々の職員が見過ごさないように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会は持たれていない。管理者が関係者との話し合いは必要時行っており、必要な内容も職員へ報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族に十分に説明し同意を得ている。又、入所後に状態変更等で説明の必要性が発生した場合には、管理者が、その都度十分に説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、家族の思いや言葉を文書化している。家族会総会にて意見等の交換の場を設けている。玄関に意見用紙を常時設置している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは随時、代表者とは月一回の会議の時に意見交換の場を設けている。又、代表者と職員の個人面談が継続して実施されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通じて勤務状況を把握し、又、個人面談により努めている		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が其々の経験年数等に合わせた研修への参加を図り、研修後の報告を会議等で報告してもらいながら知識・技術の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会主催の研修、交換研修に参加し他GHの対応等を知る事により、質の向上を図る取り組みをしている。又、参加者から全職員に報告をしてもらって周知に努めている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の話しや様子を知り、又、関係者や家族からの情報を出来る限り収集した事を全職員が共有しながら、場所が変わる事への本人のストレスを少しでも減らすような対応を心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者を中心に、全職員が其々の立場で努めている。必要な事は必ず管理者に報告し、家族も安心して貰えるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のない入所希望の家族には、他施設の紹介や案内を含めた対応を行っている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット理念がともに支え合う理念になっており、利用者との会話のなかで、又、家事等を一緒に行うなかで人生の先輩から学ぶ気持ちでよい関係を築けるように努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時、近況報告及び情報交換し共有できるように心掛けている。又、状態変化により協力が必要になった際も家族の協力を得ながら共に支え合う関係作りを行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者がお墓参りや自宅を見に行く等の支援をしている。他は家族・知人の面会や協力を得ながら努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間に其々が関わり合えるような会話に努めたり、同じ空間で利用者同士がふれ合えるような環境作り、必要な時は間にフォローに入る時もあったりである。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中又は退所後、病院や施設に主に管理者が時折、面会に訪問している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の行動や会話の中から、本人の気持ち等汲みとれるような声かけに努めている。又、意思表示が出来ない場合は表情や反応から汲み取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中での本人の話しから、又、家族の協力を得ながら、アセスメント作成している。全職員が目を通せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて見守り、体調の変化や生活の様子を個人記録に記入している。朝、夕の申し送りや情報の共有が途切れないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、カンファレンス時に十分に話しあい生活課題を見出すようにしている。又、介護計画作成時は家族に説明を行い、面会時の家族との会話の中で、家族の意向も汲みとれるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、伝言ノートと個人のケアポイントを其々記入し、全職員が確認できるようにしている。又、介護計画に沿った対応が出来るように毎日ケアプランチェック表を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の行事への参加や来訪時のコミュニケーションで、利用者が楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を2週に1回実施し現状の状況報告を行なっている。利用者は先生の声かけや顔を見ると笑顔になったり安心して受けている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、申し送りやその都度状態報告し指示を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、家族や病院関係者との情報交換を蜜に行い、安心して治療が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を踏まえて、主治医や家族との情報交換を蜜にしている。必要な方には終末期同意書を交わし取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないが、殆どの職員が救命救急法の研修を修了している。又、施設内にAEDを設置し研修を受けてはいるが、実践力に繋がるかについては不安が残る		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者を交えての全職員参加の避難訓練と緊急連絡網を利用した模擬訓練を実施している。定期的に地区住民の方や消防署員の参加もお願いし、意見を頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに配慮しているが、長期入所している利用者も多いため、慣れ合いの言葉かけや非敬語になってしまう事がある。排泄介助の際は特に注意して対応している所である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせて自己決定が出来るような声をかけ、意思表示が困難な方には表情や全身の反応を読み取りながら働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者其々のペースに合わせた対応に努めているが、一日の流れの中で施設の決まりや都合を優先する事も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆どの利用者が出張美容を利用している。利用時は本人の希望に合わせたスタイルにして貰っている。中には馴染みの店に通っている方もいる。又、外出や行事に合わせた服装や雰囲気作りに配慮したり、季節に合わせた衣替えが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から一緒に食事をし、会話の中で食べたいものを表出できるような働きかけを行っている。準備は出来る方や好きな方が行い、食器拭きは当番制で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り栄養バランスに注意しながら個人に合わせた量、摂取しやすい器の選択、又、刻み食や栄養補助剤等を提供している。又、体調変化時は摂取量を記録し量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の習慣となっており、忘れがちな方には声かけで実施している。磨き不足な方は、介助を行い、拒否がある時は時間、人を代えたりして働きかけている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや状態を把握した上でケアを行なっている。夜間時等の声かけにより排泄の失敗を減らすようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中の体操、歩行運動は日課となっている。毎食、食物繊維の多い食材を取り入れている。必要な方にはセンナ茶飲用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午後の決めた時間帯で対応しているが、習慣化している。又、状況や体調により対応する時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や習慣に合わせた休息や昼寝など出来るように対応している。季節に合わせた室温の調整や寝具の使用等で夜間は安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに薬の説明書を綴じて常に確認できるようにしている。又、処方の変更があった時は、ケアポイントに記録し、全員周知徹底を図っている。症状の変化時は看護師に報告し医療機関との連携を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の中だけの生活にならない外出・散歩やドライブ等の支援に力を入れている。又、屋内では個々の嗜好、習慣に合わせて、縫物、踊りや歌等の活動を様々な場面に取り入れて支援している			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、日帰り旅行を企画し、普段は行けないような場所へ家族と一緒に出かけている。又、買い物の要望がある時は、希望に添えるよう配慮している。自宅への帰宅要望がある方には家族の協力を得られる様働きかけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が職員管理となっているが、中には自分で所持している人もあり、小遣い帳を記入使用しながら決まった小遣いの中で使う事が出来るように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要望がある方には自由に使えるよう支援している。昨年までは、個々を書いた年賀状や暑中見舞いのハガキを送っていたが今年は実施していない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を居心地の良い空間作りに努めている。観葉植物や生花を飾り、季節感を味わって頂く配慮をしている。新施設になったため、個室内の空間はやや殺風景になりがちであるのが現状である。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに居心地の良いようなソファを置き、ゆっくりテレビを見られるような空間を作っている。又、目の前が公園のため四季を感じられるような全面ガラス窓の作りになっており、デッキにベンチを置き直接外気を味わえるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状態に合わせたベッドを使用している。仏壇や本棚を置いて思い思いに過ごしている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新施設になり、バリアフリーでスムーズに歩行出来るような環境になっている。ワンフロアになり温度差もあまりなく、見守りし易い環境から以前と比較すると安全に生活できるようになっている。		